巻　頭　言

（公社）日本義肢装具士協会　南日本支部研修委員会　副委員長
株式会社　長崎かなえ
中野　浩朗

今年度より南日本支部研修委員会副委員長を務めることになりました、中野と申します。また第31回日本義肢装具士協会学術大会では、副実行委員長を務めさせていただきました。多くの方々にご協力いただき大会が無事開催できたことを、この場をお借りして御礼申し上げます。

私が義肢装具士という職業を知ったきっかけは、高校入学してすぐの交通事故。自転車で下校中に車にはねられ骨折して装具を作製しました。

勉強を疎かにした高校三年生の私には進学の選択肢は狭く、途方に暮れていました。自分にできる仕事や進学先はないものかと、図書室で何気なく手に取った職業図鑑に「義肢装具士」を見つけ、自分の装具を作ってくれたこの職業を知りました。当時養成校は全国に5校、そのうちの1校が地元の熊本にあり、しかも最も不得意とする英語を回避して受験できる、もうこれしかないと心に決めました。

消去法で進んだ義肢装具の道ですが、学院での勉強は専門的内容で興味深く楽しく学ぶことができました。なんてことはなく、科目は多いし製作実習は上手くいかない、パンフレットでは笑顔で優しそうな教官の先生方も厳しい。1年生の前期試験前、もう無理と涙しながら母親にメールした記憶が蘇ります。こんな感じで始まった学生時代ですが、一緒に勉強した同期の仲間や先輩・後輩のおかげで乗り越えることができました。特に助けられたのは先輩方からの受け取った「過去問と情報」でした。これで試験を乗り切り、今、巻頭言を書いています。また受け取るだけでなく、情報をアップデートし後輩へ繋ぐ必要性を強く感じました。これで誰かが助かると。

臨床ではこの「過去問」は文献やこのジャーナルといった形で存在、「情報」はインスタグラムなどのSNSなどでも幅広く発信されていますが、特に学術大会では全国より義肢装具業界に関わる方が集まり、幅広い生の情報を得られる絶好の機会となります。

この機会を作ってくれるのが、本協会であり加入するメリットなのかなと個人的に思っています。何気なく参加していた協会のセミナーや学会ですが、運営される方の大変さが身に染みた今日この頃です。微力ではありますが研修委員としての業務が、義肢装具業界とユーザーのQOL向上につながれば幸いです。